

リレー連載生ヒストリー—温故知新

第18回 田口 博さん (66期)

関東同窓会は、過去に1、2回程総会・懇親会に出席したことはありましたが、積極的な参画はしていませんでした。平成25年に我々66期が主幹事として第52回総会が行われ、その後同期の塩野崎英二さんが会計長となったこともあり、平成29年の役員改選時に上原昇会長（第19代 65期）のもとで幹事長を引き受ける事となりました。しかしながら1年後には仕事の関係上満足な活動が出来なくなったため、辞任を申し出て幹事長代行を決めていただき、その後は幹事長代行の基で各役員が業務を分担しての運営となりました。当時の役員の皆様、特に幹事長代行をお引き受けいただいた関博明さん（72期）にはこの場をお借りして改めてお詫びと感謝を申し上げます。

一番印象に残っている出来事は、前幹事長から数か月間レクチャーを受け、心の準備は出来てはいましたが、実際の活動は兎に角忙しく、今振り返ると反省ばかりが思い出されます。自宅に届いた会報一面の新年会コンサートの紹介記事で、ピアノ伴奏者のお名前に誤字が発覚、即座にご本人にお詫びを申し上げた事などは苦い思い出です。

一番苦勞したことは、やはり年会費の納入促進活動があげられます。高校卒業後に関東地区に移り住むと同時に関東同窓会会員となりますが、なかなか会費の納入までは認識いただけない会員が多いことを痛感しました。ご認識いただきながら、会費を納めていただける会員をいかに増やすかが今後も重要な課題となるのではないのでしょうか。最近、新しい納入方法の選択肢としてクレカ払いが追加されたと聞き、おおいに期待します。また、幹事会等では相談役や顧問の大先輩方も多数出席され、活発な議論は好ましいのですが、発言される方々は毎回決まってしまう、議論のための議論のようなこともありました。全て執行部に一任は困りますが、後輩たちの、運営に対する頑張りに適切なアドバイスとサジェスションを与えるくらいの心意気が望ましいと感じました。

もはや古稀を過ぎ、これまでに多数の方と知り合いましたが、上田高校ほどの同窓会組織と活動を聞いたことがありません。これは今迄に携わった先輩諸氏の熱意とご苦勞があったればこそです。若手の会員も、すすんで自発的に参加・参画するような魅力的な活動、アイデア山盛りの会となるよう、益々の発展を切に願っています。